

平成29年度庁舎建替特別委員会視察報告会 要点記録

日 時 平成29年9月1日（金）11時から11時20分まで

場 所 第一委員会室

出席者 委員長 岸田 厚

副委員長 金子 拓矢

委員 反甫 旭、烏野 隆生、澤田 和代、井舎 英生、岩崎 雅秋、
河合 馨、米田 貴志

視察先 埼玉県春日部市

日 時 平成29年8月1日（火）13時から14時30分

テーマ 新庁舎建て替えの概要と特別委員会について

【報告会での各委員の発言要旨】

□春日部市議会新庁舎建設特別委員会は、約1年かけて月1回から2回、計17回開かれている。市当局には意見を聞くときのみ入っていただくのみで他は委員だけで検討していた。候補地だけに特化した委員会である。①緊急性②経済性③まちづくり、という三つの視点で候補地を絞り全会一致になるまで粘り強く議論をしていた。その際にいつも原点である三つの視点に立ち返ったということから、岸和田市でも議論の前に基本的な視点を決めておくことは重要である。当局から平成25年庁舎建替庁内検討委員会報告書の記述を参考にしながら視点を決め議論すべきである。また、防災の拠点づくりとしての緊急特別交付金が利用できないのは残念である。市民の意見をどう汲み取っていくのかという課題もある。春日部市は3000通のアンケートを送付したという事であったが、岸和田市は市民参加という形でもっと積極的な受け皿づくりをするべきである。

□春日部市の人口は約23万人、面積は約66km²。形は、岸和田市は長いが、春日部市はコンパクトにまとまっている。春日部市は岸和田市と同じように合併を繰り返して大きくなってきた。

候補地を決めるのに非常にエネルギーを費やしたと感じた。今は駅の西側にある庁舎を東側に移してほしいという声も市民の中には多く、それでかなり時間がかかったようだ。結論としては旧市立病院敷地に新しい新庁舎を建設することに決まったが、市が線路で東西に分裂されている市であり、東側の地域の活性化の為に、サテライトセンター的なものも将来作っていくということにも興味を持った。庁舎の位置は、将来の市の発展にかなり影響を及ぼすので、場所の選定は非常に重要である。

□春日部市では行政が候補地を二つに絞れたが、色々と意見が分かれた。そこで市議会ではゼロベースで考える特別委員会を設置した。自分が春日部市議会議員なら、この決まった市立病院の跡地が第一だと思う。行政が提案していたことの裏付けを一年かけて特別委員会で出来たのではないか。特別委員会を設置して議論を重ねたことで、市民、行政、議員ともに納得することが出来た。本市も市民の意見を聞いて進めなければいけないが、聞きすぎると、意見が分かれることなので実際にどこまで出来るかわからない。しっかりと行政で話を煮詰めていただきたいが、最後は政治の判断に至るのではないか。我々が市民に納得する形を示していかなければならない。

□候補地の決定は第一である。春日部市の候補地の決定の為に17回の特別委員会開催と2回の視察は候補地決定の裏付けとなるような投資であった。本市においても進めるうえできっちりとしたスケジュール感が必要である。

□市民の中には庁舎が古いことや建て替える計画があることを知らない人がいる。市民アンケートを取り、集約した形で特別委員会を進めるべきである。

□春日部市では庁舎建替について、移転と現本庁舎で不便と感ずることや庁舎に必要な機能などについて2回市民アンケートを取ったとのことだが、肝心の場所の事や予算が抜けていた。ある程度は市民を巻き込んでの議論が必要である。行政、議会で考えていくが、結果報告の前に市民に知らせることも必要である。春日部市の特別委員会は建替場所の選定に重点をおいていたが、余裕があればもっと多岐にわたる議論をするべきである。施設複合化の提案が行われていたのは参考になった。

□春日部市は、建設候補地を駅の東側か西側かのどちらにするかについて住民から陳情を沢山受けたうえで特別委員会が設置されているのが本市と違うところである。ただ、市が駅の西側にしたいという強い意向があったのかと思う。候補地がほぼ決まった上での委員会の設置であるので、本市も（当局が）早く場所を決めて議会に持ってきて、その上で特別委員会をつくり議論する形を作らないと前に行かない。春日部市は、候補地だけではなく、今後は基本計画、基本設計、実施設計等の点検や検証などにも積極的にいかかわるといふ事である。早急に本市は移転先を示すべきである。

□春日部市の最大の特徴は、行政からの提案にこだわることなく議会として独自に提案したところにあり、理事者を呼んで質問と説明主体の従来の委員会ではなく、議員自身で独自に議論したのも先進的である。本市でも今後、大きなプロジェクトでは取り入れてもよいのではないか。広範に取り組むのではなくて、何かに特化して話し合われている点もよかった。2年としていた特別委員会の期間を1年に短縮した姿勢も素晴らしいものである。

□春日部市の特別委員会では場所について、ゼロベースで検証しようとするのが目的で、委員同士の忌憚のない議論があった。従って庁舎の規模や機能等は市の整備基本計画の承認という意味合いが強いと感じた。

特別委員会の運営については、理事者の出席はあまり求めず、委員間のやり取りが中心であり、建設場所の決定についてどのような議論がなされたのか公の記録を残すという意味では、委員協議会ではなく特別委員会で記録を残すという事は重要である。

岸和田市の場合は、建設予定地についても未だ決定せず、スケジュールについても未だ確定していない。市民に対してもアンケートもしていない。本庁舎に関してもう少し丁寧に、市民に情報の公開と意見の反映をさせていくことが課題だと感じた。

以上